

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	人間福祉研究科
大項目	4 教育研究組織 (研究科)
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1)研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

#### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部教員の総数に占める研究科担当教員を増加する。	→学部教員の総数に占める研究科担当教員の比率。	B	B	B	B	B
2. 学外の実践家や政策担当者などゲスト・スピーカーを増やす。設置理由実践と研究と教育を連携させる教育研究組織にするためには機動力のある運営が必要である。	→学外の実践家や政策担当者などゲスト・スピーカーの数。	B	B	B	B	B
3. 研究科の研究組織としての使命・目的と実際の研究組織の適合性を定期的に検証する。	→大学院諸問題検討委員会の開催とカリキュラム、研究教育組織の点検回数と件数。	B	B	B	B	B

☆

  

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

#### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本研究科の学部教員の総数に占める研究科担当教員数については、大学院諸問題検討委員会、研究科委員会で検討を重ねてきている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学部教授会で任用応募を告知し、研究科担当教員の増加に努めた。経年の研究科担当教員任用件数は、2009年度 3件、2010年度 1件、2011年度1件、2012年度2件、2013年度2件、計9件であった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も学部教授会で任用応募を呼びかけるとともに、今後も引き続き、大学院諸問題検討委員会、研究科委員会で検討を重ねる必要があると考える。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各演習担当者について、ゲストスピーカーを招聘する予算があることを教授会で周知し、教育上、ゲストスピーカーの招聘が必要な場合は対応できる形を取っている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 学外の実践家や政策担当者などのゲストスピーカーによる授業や講演は、3つのカリキュラム系列のそれぞれで実現している。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 現在のシステムをより改善するために、よりよい運営について検討する必要があると考えられる。	☆
		その他	
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 研究科の研究組織としての使命・目的と実際の研究組織の適合性については大学院諸問題検討委員会、研究科委員会で検討を重ねてきている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 今後も時間をかけて検討していく必要があると考えている。本研究科は人間福祉学部とあわせて設置されているので学部との関係も考慮し検討すべきであるとする。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も引き続き、大学院諸問題検討委員会、研究科委員会で検討を重ねる必要があるとする。	☆
		その他	
			☆
備考			☆